

道

2020・5・13

通信 No 1584



二輪車

リレー・エッセー2 番バッター ソプラノの菅谷留美子です。

皆さんにお会いできなくなって、こんなに長いことお会いできないなんて、全く考えてもいませんでした。これから先もいまだ見えずの状況……そんな中、時折送られてくる「道」通信に、歌えなくても 会えなくても 歌の仲間（「道」の仲間）であることを実感させてくれました。

運営委員の皆さんの真摯な活動に頭が下がります。ほんとうにありがとうございます。

私はこれまで何度も退団の窮地に立たされました。しかしその都度救ってくれたのは「道」の方々でした。今は歩行困難だったり、以前のような高音も出にくくなったり、ちょっと寂しさもありますが、、、「道」は私にとって、大切な大切な居場所です。心優しい人達に囲まれて、ほんとうに幸せです。せつかく人並みに細(?)くなった菅谷でしたが、コロナ太りで元の菅谷に戻りました。早く会いたいし、歌いたいです。

中山先生 長い間 本当にありがとうございました。

リレーエッセーのバトン、私を「道」に導いてくれたステキな人、古岩井序子さんに渡します。

お会いできる日を楽しみに 心待ちしています。

(ソプラノ・菅谷留美子)

子育ても少し目途が立ったし、そろそろ自分のことしようかな?と思ったのが28年位まえ?「道」に入れていただきました。いえいえ……そのズーと前の1968年の第九を歌い、その後合唱団に残り1970年シベリア旅行にも行ったのでした。ズーと昔の話です。その頃 私が合唱団に入っていたのは、ほんの3年くらいでしょうか。北川剛先生を囲み 練習の終わった後 叶やに行くのが楽しみでした。息子さんの話 家事の話 そしてシベリア抑留の時の話、これは父の話とも重なりました。

そんな中1970年 シベリア・バイカル湖14日間のキャンプ旅行の計画に飛びつきました。親からは猛反対されましたが、合唱団員5人 その友人1人 全国各地から集まった10人 添乗員1人の合計17人の一行です。7月25日 横浜港からハバロフスク号で出発。友だちがたくさん見送りにきてくれました。その中にまだ結婚前の朝倉夫妻の姿もありました。

ドラがなりテープが投げられ出港の合図 初めての海外旅行で二日間の船旅です。

二日後 ナホトカ着 シベリア鉄道でハバロフスクへ。車窓から見える 果てしない地平線にずっと見とれていました。ただただ広いことにびっくり! 現地学生とのキャンプ生活。今までにない生活でした。

その後 一緒に旅行に行った一人と結婚。子育てと仕事に追われ 練習にはいかれなくなりました。ズーと昔の話です。空白期間20数年位でしょうか? 夫も1997年のロシア旅行を期に再入団20年を過ごさせて頂きました。今は上から どんな気持ちでこの状況見ているでしょうか?

1日も早く 皆さんに逢えるのを 一緒に歌えるのを楽しみに待っています。もう少し頑張りましょう。

バトンは、バスの堀内さんへ渡します。

(アルト・古岩井序子)

五月一杯緊急事態宣言が延長され岡野中学は使用不可です。練習は中止です。